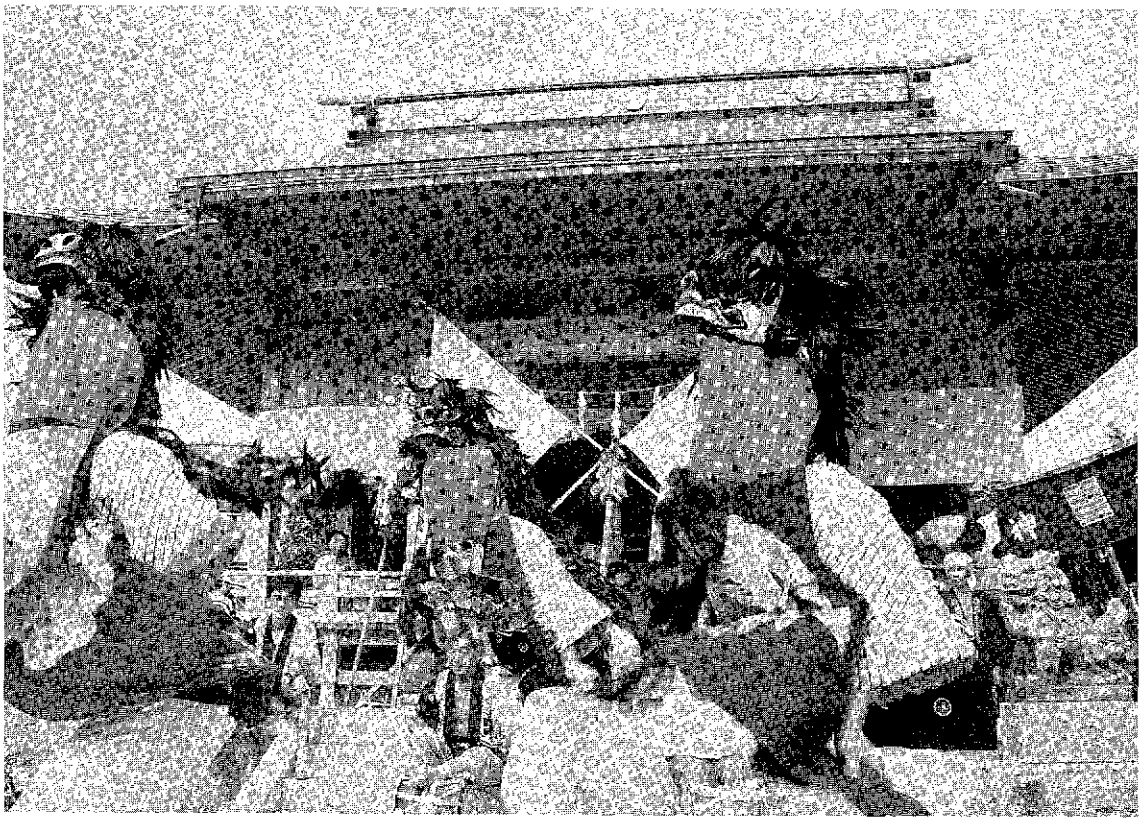
昭和33年3月15日　第三種郵便物認可　平成6年9月15日発行（9月号）通巻第499号　毎月15日発行

新潟県

# 公民館月報

平成6年
9月
第499号

## 特集　住民の学習要求に適応する公民館の在り方



### 坂町の獅子踊り

これは坂町区で踊り継がれている三頭獅子が八月二十五日の例祭で若宮八幡宮前で奉納している写真である。

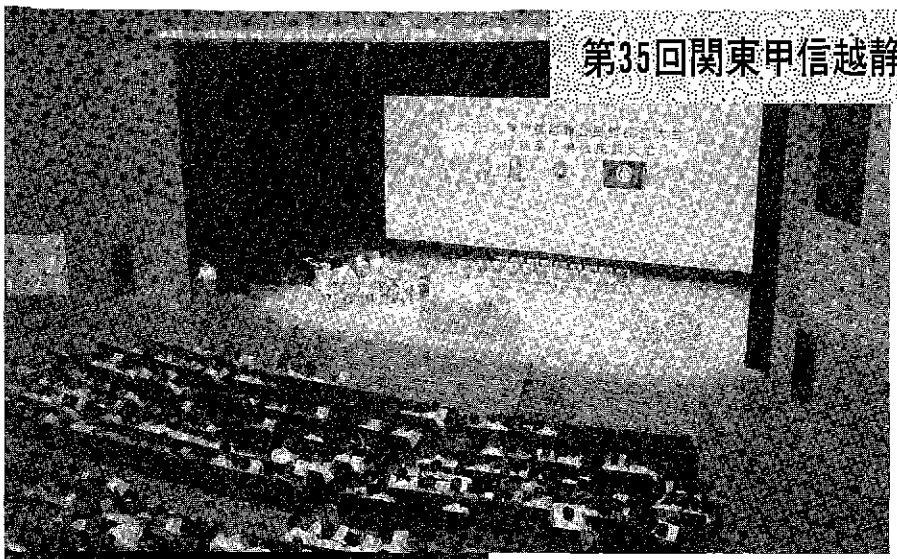
坂町の踊りは天保四年（一八三三）生れの人が若連中の頃から始まったといわれ約一六〇年間伝承されている民俗芸能である。

踊り手は、小学生（二年生～四年生位）中学生（一部高校生）若連中の三組。

（写真・資料提供、荒川町公民館）

## 第35回関東甲信越静公民館研究大会

# 神奈川公連の情熱具現
# 一人ひとりの生きがいの創造を！
## 厚木市文化会館で燃える



てい談スナップ

分科会風景

去る八月二五日㈭二六日㈮の二日間にわたり、厚木市文化会館を主会場にして、第三十五回関東甲信越静公民館研究大会が開催された。

研究テーマは、〝現代的課題に答える公民館の役割〟―一人ひとりの生きがいの創造にむけて―と題して十七の分科会と鼎談による研究討議がなされた。

主管の神奈川公連の創意をこらした全体構成と精力的な取り組みが会員に伝わり、参加者は千五百人という多数の大研究大会であった。

研究大会の特色は、高齢者や障害のある人在日外国人、子育て中の女性等のマイノリティに視点をあてて一人ひとりの学習の保証をしたいという神奈川県の強い意志があらわれていたことである。

◇◇◇◇◇

鼎談は、「地域の生涯学習機関としてのあるべき姿を求めて」をテーマに、公民館が当ブロックのみでなく、全体的に二局分化している。一は、ニーズに対応し、発展している公民館、二は、住民の対応が不十分で停滞している公民館、この差が大きくなっているのでないか。しかし、活発な公民館ほど住民要求が高く、不満をもっているという現状もある。三つのチェンを取り組んだ公民館でありたい。

一、血縁。二、地縁。三、知円を大切にして学び合う公民館になる必要があるという提案がなされて会員も熱心に聴き入っていた。

登壇者（講師）は次の諸氏である。

坂本　登　氏
文部省生涯学習局社会教育官

塩崎　千枝子　氏
松山東雲女子大学助教授

田中　美子　氏
㈱ライフデザイン研究所　研究開発部副主任研究員

◇◇◇◇◇

本県の担当分科会十三「乳幼児教育と公民館」は出席者三五名で、国際家族年でもあり、子どもの権利の保障を真剣に考えている担当なので時間が足りないほど熱心な討議で終始した。

発表者　柏原　路子　氏
西蒲原郡弥彦村公民館
前社会教育指導員

発表者　小森　順一　氏
西蒲原郡弥彦村公民館主任

助言者　笠原　誠　氏
前新潟市立紫竹山小学校長

発表題名「通信による家庭教育の試み」―「子どもの成長を楽しむセミナー」における個別学習と集団学習の取組み―（平成二年度から開始）資料として年齢別の「はがき通信」「すこやか通信」の実物を配布。

「はがき通信」のあて先は保護者と幼児の名前にして工夫した色や内容で三歳になるまで対象家庭へ送り続ける。

「すこやか通信」は手書き手造りで家庭教育情報を届ける。

「集団学習」では親子ふれあいの場を年六回、講演会を二回実施している。司会者の巧みで、ていねいな進行と助言者の「ちょっとしたアイデアをフルに生かしたいい例」の評で、全員に深い感銘を与えた。

## 関ブロ大会で 上村 捨二郎氏 表彰される
### 永年・功労で栄誉ある受賞！

平成六年四月三十日で勇退された前県公連事務局長上村捨二郎氏が、関東甲信越静公民館連絡協議会としては初の永年勤続の事務局長としての晴れの表彰状と記念品を受けられた。県公連創立四十周年誌の編集責任者としての多大な尽力。第32回関ブロ大会を成功に導いた主管責任者としての精力的な活躍。県公連のマンネリ化打破に努力された功績と力量を高く評価されてこのたびの受賞となった。上村氏の感激を県公連ともども享受し、氏の今後ますますの活躍を祈念して祝福と感謝のことばを贈りたい。

## 第一回運営検討委員会開かる
### 委員長に上村捨二郎氏

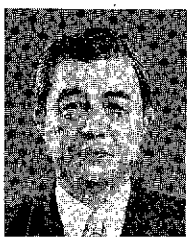
去る8月22日特設の運営検討委員会が開催された。7月15日に同委員の選考委員会（県公連正副会長）を開催して左の委員が委嘱され、同会を開き、主として財政に関することで提案があり、次回はもっと具体的な提案が予定されている。

運営検討委員名簿　H6
敬称略　五十音順

| No. | 委員長 | 所属等 |
|---|---|---|
| 1 | 上村捨二郎 | 前県公連事務局長 |
| 2 | 小林　秀夫 | 長岡市中央公民館長 |
| 3 | 平野　利夫 | 加茂川村中央公民館長 |
| 4 | 福島　市男 | 新潟日報社員 |

## 視点
## 自画自賛？

諏方 道男



今年に入ってから視察の受入れが毎日のように続き嬉しい？悲鳴を上げている昨今である。

二十三億円の費用を投じて昨年十月オープンした新発田市生涯学習センターのことである。平成元年四月、市教委へ異動して最初の大きな仕事が、生涯学習社会の構築を目指した基本構想の策定であった。

勿論、私が作った訳ではない。多くの方々の英知を拝聴し、二一世紀を標榜する市の将来像を創造しつつ、打合わせや会議の連続であった。

この構想は、当初生涯学習センターを建てるために構想しようとしたものではなく、それは当然その一部にしか過ぎないものであった。

生涯学習センターは、まだ法人ではないが市長を理事長とする新発田市生涯学習振興公社によって管理と運営を任され、スタッフもそれぞれ幅広い専門性をもつ中、高の校長経験者等を据え、特色あるプログラムを企画することができた。

今年四月から、いよいよ本格的にスタートし、今やアクセルを精一杯踏んで快進撃中であり、市民の学習意欲に応えているところである。

幸いセンターの建設は、自治省のリーデング・プロジェクト事業に採択され、公設・民営を前提として完成された。

そして、新発田市生涯学習センター　事務局長）

## 洋上教室に参加して

鳳氣至玄子

近年どこの市町村においても学校教育と並んで生涯学習が重要視されて来ました。岩室村も他の市町村に比べても決して劣ることなく「人づくりによる村づくり」を指標として進めて来ました。そんな内で今年で二回目の洋上教室が七月二十日佐渡の赤泊で行われました。高齢者学級の中で「さわやか学級、寿学級」の二つの学級があります。私は寿学級で料理教室で関わっていましたので公運審の一人として参加しました。目的は二つ。一つは岩室村石瀬にある青龍寺に中世期まで溯ることが想定される笈摺（おいずる）（僧の修行時の道具で上段には仏像を下段には日用品を入れ背負う物）が発見されました。同一の作と思われる類似した笈が佐渡赤泊で県の文化財に指定され公開されていると言うことで自分達の目で検証しよう。二つめは佐渡の文化の代表である文弥人形、佐渡おけさ、両津甚句等ど、たまたまゲートボールチームが手合せしたい等の触合いを深めよう、この二日的を持って七月二十日計六十三名の大勢で寺泊から船出しました。郷土資料館で笈摺を検証し確かにそっくりである事にうなづき、文化財として認められるのを夢にしたくない。

公民館の大広間では女性のみで座を持つ常盤座の文弥人形鑑賞をさせてもらい自から手にする事も出来ました。素朴な顔も見る場面によって表情も変り、長い伝統の重厚さに溜息の出る思いでした。佐渡おけさ、両津甚句、岩室甚句、岩室音頭、等の踊りと唄を通して賑やかな交歓会が出来ました。戸外でのゲートボールの試合も仲良く引き分けでした。三時過ぎには船上の人となり見えなくなるまで見送り下さった皆さま有難うございました。今度は私達がお迎えする番です。心に年をふやさず一人が二人へと輪を広げてこの楽しい教室をもっと発展させて行きたいものです。

（岩室村公民館運営審議会委員）

## ひろば

記念講演　要旨

# 公民館の在り方

萩原　元昭　氏

講師紹介

萩原元昭教授は昭和三十二年東京教育大学大学院教育学研究科修士過程を修了されたあと、東京都立教育研究所、文教大学、群馬大学等の教授を歴任され、現在は、群馬大学教授のほかに放送大学の客員教授、埼玉大学、広島大学の講師として活躍されています。

とりわけ、公民館職員論には造詣の深い方で、午前中の各分科会で出た課題と結びつけながら、感動的で示唆に富んだ記念講演をいただきました。この要旨は県公事務局の編集子がご本人の了承を得て掲載をしました。

## 一　はじめに

社会教育で、今さかんに生涯学習の体制づくりということが言われているが、難しく理解しにくいという状況にある。午前中各分科会をのぞいたが、きょうの主題は歴史的な経緯で、広がりや深さがあって、こういう形がいいのだという典型的なモデルを示すのは困難である。

## 二　何をどこまでするか

私も川崎市の百合ヶ丘の市民館（神奈川県では公民館を市民館といっている）で、婦人学級を担当したことがある。12回を一人でやれというが、全員に飽きられるのではないか。課題に何を選んだらいいかと苦しんだ。

最終的には、自分たちが生まれてから今日まで、どう生きてきたかをそれぞれが考えてみようということで、会員の共通したものがある筈だと考えた。ただ、自分の生き方とか学習というものは、他人から見ると、個別の歴史であるから、関心が深まらないのではないかという予測ができたので「人類が誕生してここまで発達してきた過程」とダブらせてやってみようと計画を立てた。

現在、公民館職員の抱えている事業は学校の教師以上に多い。事業の精選とか、焦点化というけれど、何をどこまでしたらよいのか分からない。

私の講座では、資料を毎回五枚程度用意するが、一回で全部読んだのでは、それでもうおしまいになるので、次回まで、よく読んできて共通の話題としてディスカッションするという重ねの学習方法をとった。

十二回の会が終り、ホッとしていたら、ぜひ、せめて月一回でいいから学習を継続してほしいというのである。私は断ったが女性は辛抱づよく諦めない。

そのとき、私は、はたと考えた。自分だけ住民や学級生に求めて、相手に求められたときに断ったのでは情けないではないかと反省して引き受けた。

その後「ことばと文化」（岩波新書版）を使って十四年間読書会を続けた。人間として最も基本的な感性や教養をどうやって培っていくかお互いに考え続けた。

従来の発達心理学では、人間は青年期が成長の頂点で流動性知能といわれてきた。最近は、生涯発達心理学として「結晶性知能説」が有力で、加齢的に残像して累積されていくといわれている。

また、幼児の発達に関しては、二、三歳でも他人の立場が分かるということも判明してきた。

公民館でする生涯学習活動も、ここに来て初めて行われるのではなく、家庭や学校での基礎・基本的な学習があってその上で行われるのだということを認識して展開するとよい。

公民館で、子育て講座をやっているところで「託児室」を設置してあると思うが、「託児」という語感は、コインロッカーのようなイメージがわく。ほんとうは、そこは保育の場にしなければならないと思う。ここに集まる子どもたちは、わが家では体験できない触れ合いができる。子どもは口には出さないが「もっとお母さんが学習できるようにしてください」と思っていると思う。

幼児も住民であり、地域人間である。祖父母といっしょに、七夕に願いをこめた短冊を結ぶという場面は公民館でないとできない。

## 三　バランスのある運営を

公民館運営審議会委員の皆さんが地域については一番明るいと思う。地域のもっている底力を結集して、当地の婦人学校の、先ほどのすてきなアトラクションのように形にして住民の頼みの綱になるのはやはり公民館である。

ただ、以前と違って学習施設、民間施設や他の部局と競合したりすることもあろうと思われるが、昨晩（七月二八日一七時）公開された青年学級のように、勤労青少年ホームと、うまくバランスをとって運営しているのは参考になると思う。

一つの市町村で、住民の多数の要求を満たすために、少ない職員でそれを抱えると、不消化になり、機械的な対応になる。かといって精選して事業数を少くし、じっくり仕事をしたいとなるとちょっとしかできないというアンバランスになる。

バブルの破綻で予算減の市町村多いので、条件整備をしたい職員を増やしたいといっても、空しく響く。

さきほどの公運審の部会では来年の大会でも条件整備の難かしさを歎くようにしたくない、という憂慮の声がでていた。重要なリクエストである。しかし現実にはなかなかうまくいかない。そして、「やっぱりできないのだ」と諦めにもっていかず、「もっとしつこく住民の願いが叶えられるように、それに賛同する人が地域にいれば要求運動をボランティアの人と共に起こす」という方にもっていく。

ここでボランティアについて考えてみたい。ボランティアというのは奉仕ではない。今まで

## 第45回 新潟県 公民館大会

# 特集 住民の学習要求に適応する

講師　群馬大学教授

社会教育活動の中で奉仕という強制的な印象があった。本当はでたくないのだが村八分になることを恐れて出る。「みんなと一緒に」という部分が戦時中から強すぎた。ボランティアにはそれをする人の選択があるというのが第一の基本である。

### 四　長い目で成長をまつ

「公民館活動の在り方」として、例えば公民館に寄って本を借りたいと思っても、五時か六時には閉館している。いい方法がないかとある人に聞いたところ「午後十時ころまで開いておくのには二人いればよい」という。職員で「早く来る人」と「遅く来る人」がいて、一番忙しい日中はダブって二人で勤務する。朝と帰りは利用者が減るから「時差勤務」方式をとりいれる。住民サイドに立った公民館というのは厳しさとアイデアを要望される。

十年ひと昔というが、地域やグループが自立向上するには時間がかかるものである。学習やグループ活動が長く続くということは、結局は自分のためになるものである。

分科会では、女性の趣味グループが多く、公的な場所で自分のためだけの活動をやってもいいのかという疑問が投げかけられた。しかし、それを一年単位で考えないで十年間単位で捕らえてほしい。十年同じことをやっていると人間の気持ちの中で「自分のため」だけでなく、「なぜ公民館とこんなに長く関わりを持てたのだろうか」とかいろいろ考えが深まり、どんどん視野が広がってくる。

はじめは「わが子」「わが家」のわがが強かったのが、私も含めて、自分が採れそうなものを、落穂ひろいのようにとり逃がさない自分に成長しているのに気づくのである。

### 五　高齢者や女性のチエ袋を大切に

人間は学歴ではない。学習歴である。前述の結晶機能というのは大変貴重な能力である。日本ではチエということばで表現している。高齢者社会が進んでいるから若い人は高齢者との関わりは避けられないし、重要な意味ももっている。

ある公民館で、高齢者と中学生とゲートボール大会をやった。体力、運動神経ともに勝る中学生が予想に反して負けた。中学生はそのあと反省会を開いてよく考えあった末、「なぜ負けたのか分かった。お年寄りは、長い人生のチエ袋をもっていたのだ。」という結論に達した。それから中学生はお年寄りを見る目が変わったという報告を聞いた。地域にあった、アイデアやヒントを生かしたよい例である。

住民の中には幼児も高齢者も障害をもった人も、外国の人もいる。十把一絡げでとらえてはいけない。公民館を創出するには、さまざまな違いのある住民を横につなぎ、相互活動し、学び合い、楽しむことが必要である。

今までは、われと他人との境界線がはっきりしていた。ボーダレス時代といわれている現在、境界線を低くしないと深い連携ができない。ジョイントができて、触れ合える事業や活動を設定する以外に連携の場がない。

例えば、公民館の利用者協議会を作って、住民が、自分たちの要求を反映させる。公運審の皆さんが会議のときに、公民館が事業をし易いように、一種の応援団として積極的に発言する。公民館職員の仕事にクレームをつけるのではなく、元気ができるように励まして見守っていく役割を果たしてもらいたい。

もう一つの大きな問題は、職員の異動が三年とか五年とかになって短いことである。行政上やむを得ないところもあるので、そこが豊かな情報をもっている公運審の委員の出番である。

また、男女共同参画型の社会が声高に叫ばれているが、「女だけしか期待しない」という松田道夫さんの作品のように、女性の活動家を増やさないかぎり日本は危い。男女共同参画型社会の在り方の研修などで「男性と女性のいい関係」では従前と変わらない。最近は「女性と男性のいい関係」が大事なのである。「男女」ということばはあるが、「女男」はない。女性が今がんばっているが、男性と闘うことではない。男性と互いに協力し合って女性の地位を高め視野を広め意志決定の過程でどんどん発言していくことが大切である。

### 六　子どもも地域人間

十年間、公民館で学習した人たちは、子育てが終わり、成長した住民になっているので、「自分たちにできることがあれば手伝いをしたい」と言ってくる。

例えば、子どもの遊んでいる姿がどんどん見えなくなり、地域が死んだようだ。もし魅力のある遊び場があれば、孫も期待できるし子どもが帰ってくるかも知れない、と発想する人もいる。

今の子どもにアスレチックではだめなのである。埼玉県で子どもにどんな遊びがほしいか調査したところ、「入口と出口をつないで丸くした無限の遊具場」という回答があった。渋滞するようなアスレチックでは自分のやりたい場所でストップして反復できないからである。それから、親が遊びに口出しをするから、北欧やロンドンのように「ノーペット・ノーアダルト」と表示することもよい。

図書館でも、父母が本の選択を指示するのでなく、子どもにとって兄姉のような司書がいて、「○○ちゃん、どの本がいい？」というふうに関わることが、地域人間になる第一歩である。こういう幼児期からのふれ

あいの蓄積の手助けをするのが人間形成のメッカとしての公民館の役割りである。

実社会で働いている成人、壮年の男性が公民館に来ないということが分科会で話題になっていた。この層が公民館に目を向けるときは「必要があるとき」である。どういうときかというと千葉県のある市で、「飲み水がおいしくない。おいしい水はどうやったら飲めるか」そういうことを考えたり調査したりする講座や事業なら参加すると答えた人が八〇％もいた。したがって、もっと日常的で切実なことに自分が関わることができるものが、成人男性にとって魅力ある事業となるのである。

また、夜間、早朝、休日の講座の要求が増えている（四三．五％）。その中に、男性がかなりいるのではないか。講座の内容だけでなく、出やすい日時とどう組み合わせるかという工夫が必要である。

行政に対しての要求では「学習に関しての事項が八〇％でている。「特にない」というのは二〇％である。

住民が身近な生活圏の中で学習や活動をしたい、という要望は以前からあった。現実的には予算カット等で難しい。合併や兼務という形が多くでてきている。分館に名目だけの職員を置くといつかトラブルがおきる。

貸し館的な集会施設に対するニーズも高いが、同時に困ったときに相談に乗ってくれる人がいるのも望ましい。

## 七　住民に公民館が適応する

それから国際化の問題がある。多くの外国人労働者や在住外国人がいるので、公民館としてどうかかわり、サービスしていくか早急に考えなければならない時期にきている。外国人の成人教育におけるマジョリティ（多数派）とマイノリティ（少数派）の問題もあるが、外国人の子どもたち（幼稚園、小学校、中学校等）が、異文化の中に入ってくるわけだから、本人にとっては大きな問題である。地域や学校には在籍する外国語で案内表示をしたりトラブルがおきないように配慮している市町村がある。

今、多くの公民館でやっている日本語講座というのは「外国人が日本に適応するため」であるが、きょうの大会のテーマでは「住民が公民館に適応する」のではなく、「住民の要求に公民館が適応する」という考え方をしようというので、日本人になじまない観念かも知れないが、相互に接近して理解し合って、助け合い、共通点をつくっていくのが国際交流の重要な点である。

生涯学習というのは、学習対象者も含めて、ボーダーラインをなくすることでもある。

例えば、家庭の問題でも、

「嫁が姑に対して何ができるか」

「姑は嫁に対して何ができるか」

というふうに、フォーカスしてみんなでチエを出し合おうというように図り、悪口の言いごっこの「吐き出し学級」にならないように留意することが大切である。

学習計画は満艦飾にしてはいけない。一回目、二回目と、二回目と三回目とが、十回するとしても、どこかで重複して関連している内容にする。

固い内容で、楽しみがないので、たまにはアトラクションをしてみたくなるが、浅い学習より、深い学習が必要なことを認識して計画する。

それから、情報化・公民館のインテリジェント化が課題になっている。公民館に行かなくとも、FXなどで情報を得られる時代になりつつあるので将来的に機器化へのシステムを導入する準備が必要である。

## 八　アコモデーションの心で

「まちおこし」は、公民館事業とは不即不離の関係である。今、有資格者時代で公民館に男性が望むのは、職業的な資格を得たいということが多い。公民館で、資格を得るということは難しい。でも、それに関することを紹介したり、情報授受の中継の機能をもつことが期待されている。大都市では、今は銀行でもかなりの情報を提供している。

アコモデーション（accomodation）ということばを提供したい。

ロンドンに留学したとき、下宿の捜し方を学生に聞いたら、「アコモデーションに行け」という。意味を調べたら「適応」という概念を含んでいる。私に合うような情報をアコモデートしてくれる。公民館に不安をもって情報を求めてくる人に対してアコモデーション・マインドで接してほしい。

前述の読書グループの学習の本を学ぶときも、何ケ月もかかって全員の意見をきいて決める。こうして決まった以上は、みんなが熱心に参加する。学習する側が主体者であり、学習者同士が急がず急がらせず心を支え合って前進する土壌を育てることにもなる。

昨夜の十日町市の青年学級では、リーダーみんなと溶け込んでどこにいるのか分からない。

これは理想的な姿である。

## 九　メダカの公民館で調和をめざす

私の考え方の一つに「スズメの公民館」と「メダカの公民館」とある。

「スズメの公民館」というのは、歌の通り「ムチをふりふりチーパッパー」とリーダーがしっかりしていて、皆が信頼していて皆が信頼してついていくタテ型の関係である。

「メダカの公民館」というのは「だれが生徒か先生か」というとおり、お互いに違う個性のある人間が助け合って一つの美しいハーモニーを作る。

「アー」という先導者の音と同じく「アー」という音にそれぞれ高低の音程を工夫して雑音ではなく、ハーモニーを作る「メダカの公民館」になってほしい。

昔の掛軸は「和」だった。今は「調和」である。相手を尊重しながら全体が一つの目標に向かって美しいものを創っていく。

相手の違いを受けとめて、最終的には指導者を乗りこえていくだけの力が育つようにこれからの公民館の活動にあたって検討していただきたい。

長時間のご静聴を感謝する。

# サークル交流

## 夢の世界

長岡市中央公民館、青少年活動演劇集団　冒険社

物音一つしない舞台。

全て取り去られた舞台にはただ静寂だけが残されている。

芝居に心魅かれ八年。

幾度も味わってきた緊張と不安。終わりの見えない表現と限界のない言葉の重なり。

そして、評価を待つ、長い長い夢の世界。

成功も失敗もわかち合う仲間がいて、支えてくれる拍手の暖かい音がある。

答える為に目一杯の声を出し感情の全てを吐き出し、体中で自分を演じる。

〝あるがままの自分はここに在る〟

そう叫ばずにはいられなくなる、全てが昇華されてゆく瞬間、あの満足感はとても表すことの出来ないものである。

芝居の中では好きな自分にも憧れの自分にもなれる、言えない言葉も言える。素直な自分になれる。それが一番の魅力かも知れない。

夢の世界へようこそ。ここはあなたの優しい夢が叶う場所。

（演劇集団冒険社　丸田美穂子）

## 流れを振り返る

中郷村木曜スポーツクラブ

私共のクラブが、日曹二本木工場のご好意で、体育館を借りて発足したのが十五年前です。

当時の四十名は、健康づくりを念頭に、仲間の輪を大切にする自主運営に心がけたものです。

クラブ員は、村の諸行事に進んで参加し、スタッフとして現在も活躍中です。更に、ボランティアの気風も身につき、良いムードが高まりました。

そんな活動が認められ、昭和六十一年に、晴れの文部大臣表彰を受けたのであります。

その後、村に総合体育館はじめ、多目的グラウンドや、テニス・ゲートボールのコート等も完成し、実施種目も多岐に亘り、スポーツの楽しさに魅せられている処なのです。

けれども、〝継続は力なり〟の教えを思うとき、身を引き締めて進みたいものです。

・チームワーク　・種目の研究　・指導者とリーダー　・健康の現代観等の課題を見つけ、それを解決するための学習を汗しながら考えたいと思います。

（中郷村木曜スポーツクラブ　会長　油川正和）

## 素顔拝見

### 広神村公民館主事　小林　敦（あつし）氏

昨春、公民館に配属、二年目の夏を迎えた。担当は教育委員会と兼務で社会体育主任として頑張っている。

なかなかのスポーツマンで夏は野球・テニス、冬はスキーと一年中真黒である。テニスについては、昨年公民館に来てから、村にテニス協会が必要と先頭に立ち、一年がかりで設立に漕着け、その行動力に敬服した。

現在は、当公民館の最大イベントである「只見沿線ナイトウォーク」の準備で夜、土日曜返上で奮闘、今年の参加予定者二千三百人の安全対策のことで彼の頭の中は一杯である。

ところで彼も適齢期、彼女とのデートもままならない忙しさが少しかわいそうであるが、持前のやさしさと行動力で、仕事と恋を両立させながら頑張ってくれるものと期待している。

（執筆者所属　広神村公民館　青木悟　記）

### 燕市中央公民館主任　小林　正（ただし）氏

皆んなに「こばちゃん」と親しまれている我が中央公民館の中堅職員である。

つい先日新潟大学を会場に約一カ月にわたる社会教育主事講習を受け無事？帰館したが、どうした心境の変化か頭を丸めてやってきた。一まわり若い「こばちゃん」に一同びっくり。

彼は青少年対策と合わせて二つの地区館を担当しているきわめて多忙な職にある。

そんな中で今年度から開設した登校拒否児童生徒のための適応指導教室「エンゼルルーム」は彼の熱意と努力によるものである。

趣味は広く、スポーツ万能、カラオケもOK、今はやらないが昔は社交ダンスもプロ級と知る人ぞ知る実力者である。

口の悪い同僚が時々「小林正（ただし）」といわず「小林誤（あやまり）」等とひやかすが、実にさっぱりとした好青年である。

（燕市中央公民館長　田中武夫　記）

夕やみに　見えぬ人影　ひそむ事故

九月二十一日～九月三十日

# ネットワーク

## '94生活の自立と介護フェア より快適に暮せるように

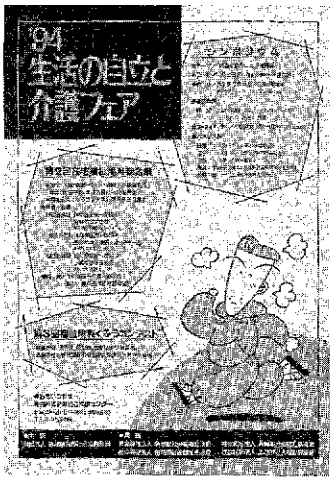
**主催　新潟県長寿社会振興財団**

お年寄りの方や障害をもっている方が、より快適な生活を送れるように、それぞれの障害に合った福祉用具の利用や生活環境の整備による自立を援助することとともに、介護者の負担軽減の推進のための普及啓発を目的として開かれる。

**問い合わせ先**　新潟県高齢者総合相談センター（新潟市東中通一～八六新潟県社会教育会館内）

☎〇二五―二二二―四一六五

## '94生活の自立と介護フェア




## 古世代をひろってみよう

### 糸魚川・青海地域の化石等の採集会

**主催　新潟県立自然科学館**

県立自然科学館では9月の催し物も大づめにきた。魅力ある内容なので参加を推薦したい。

**名称**　糸魚川・青海地域の化石・岩石・鉱物採集会

**日時**　9月25日(日)7時30分～16時30分

**場所**　糸魚川市・西頸城郡青海町

**対象・定員**　小学生3年以上40名（小学生は保護者同伴）

**参加料**　一、五〇〇円

**申込先**　新潟県立自然科学館

新潟市女池字蓮潟東二〇一〇―一五

☎〇二五―二八三―三三三一

## 平成六年度 いきいき県民カレッジ祭にどうぞ！

いきいき県民カレッジ祭
～新しい自分との出会いを上越で…～

**9月24日(土)**

**新潟県生涯学習振興大会**

市町村、地域における生涯学習社会を築くことを目指し、地域の特性を生かした生涯学習の推進について、先進地の実践事例の発表と話し合いをします。

●時　間　午前10時から12時10分まで（午前9時30分開場）
●会　場　コンサート・ホール
●実践発表

**音楽アラカルト**

●時　間　午後6時30分から8時30分まで
●会　場　コンサート・ホール
●定　員　477人

**ニュースポーツ体験広場**

ニュースポーツが実際に体験できます。運動のできる服装、上履きを御用意ください。

**9月25日(日)**

**生涯学習いきき広場**

県内各地で生涯学習を実践しているグループや団体が、劇、影絵、コーラス、伝統芸能など、日ごろの学習活動の成果を発表します。

●時　間　午前10時から12時及び午後1時から3時まで
●会　場　コンサート・ホール

**9月24日(土)・25日(日)**

**生涯学習まちづくりパネル展示**

●時　間　9月24日(土)12時から午後4時まで
　　9月25日(日)午前10時から午後3時30分まで
●会　場　練習室A

**学習情報コーナー**

●時　間　9月24日(土)12時から午後4時まで
　　9月25日(日)午前10時から午後3時30分まで

**主催・新潟県教育委員会**
**・上越市教育委員会**
**・(社)新潟県社会教育協会**

## 家族を見直す

### 燕市・「燕大学」講座

燕市の市政三十周年を記念して、昭和五十九年から毎年開いている。

ことしのメーンテーマは、国際家族年にちなんで、「家族」。安易に暮しがちな〝家族の大切さ〟をあらゆる角度から見直す。

ほかに経済動向や生活の基盤である地域史なども含めている。

第1講から10講までである息の長い講座で平成六年九月二十一日から十二月十四日まで続く。

**対　象**　燕市在住、在勤の高校生以上

**定　員**　60名

**受講料**　無料

**連絡・申込先**　燕市社会福祉課

☎〇二五六―六三―七〇〇一

第1講　家族と住まい
第2講　人の声と民族文化
第3講　家族の中の親の権利
第4講　家族の中の子どもの権利
第5講　今後の景気展望と地場産業の動向
第6講　子どもの行動①
第7講　子どもの行動②
第8講　未定
第9講　絵図、地形図から地域史を語る。
第10講　内容未定、卒業証書贈

多数の参加をのぞみ、成功を祈っている。

## あとがき

◆関ブロ大会が暑いこの夏厚木市で立派に終了しました。13分科会の役員の皆様と、参加された県内の多数の方々にお礼申し上げます。

◆県大会の記念講演の要旨を3頁にわたって掲載しました。公民館の在り方として住民を大切にし長い目で、自立、向上を見守ってほしいという講師の深い願いがこめられています。

◆県大会の分科会の記録は編集の都合で十月号以降に掲載します。長時間の討議の記録を現在整理中ですが、司会者、記録の方々のご苦労がしのばれます。さぞかし月報をお待ちかと思います。かなり膨大な内容ですので、せいいっぱいまとめてみますが、報告が遅れますことをご了承ください。

（鴨井記）

発行所　新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2―9・県林業会館内】
【電話・新潟（025）224―6073】

発行人　会長　細川　仁
編集人　事務局長　鴨井三郎
【定価1部130円〒共・年極1,560円】